

2	一宮	尾西第三中学校	オオミヤ キミオ 名前 大宮 公雄
分科会番号	20	分科会名	総合学習

## 研究題目

### 生きる力を育む総合的な学習 —3年間を見通したキャリア教育の実践—

## 研究要項

### 1 はじめに

本校では「『やる気の三中 熱意をもって』を掲げ、『地道・徹底』を貫き、『自立・貢献』できる生徒を育成する」という教育目標のもと、総合的な学習の時間の指導目標として、以下の三点を設定している。

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ・学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
- ・各教科などで身につけた知識や技能等を総合的に関連づけ、深め、活用できるようにする。

### 2 研究のねらい

#### (1) 3年間を通じたキャリア教育の実践

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。また、ここで言うキャリアとは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」とされている。(引用 中央教育審議会)

新型コロナウイルス感染症の蔓延やAI技術の発達、少子高齢化など、生徒たちを取り巻く社会情勢は日々目まぐるしく変化しており、現代の子どもたちに求められるものもより複雑になっていると考えられる。そのため、総合的な学習の時間の目標でもある「探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す」ことをキャリア教育の中に織り交ぜ、中学3年間で「生きる力」を育み、将来に生かしてもらいたいと考える。

#### (2) 生徒の実態

2年生生徒は162名で、学級数は4クラスである。明るく真面目な生徒が多く、授業や学校行事、部活動や清掃などに意欲的に取り組むことができている。また、「困っている人を助けたい」「社会に貢献できることをしたい」という思いをもつ生徒が多く、将来やってみみたい仕事や夢をもっている生徒はいるものの、その人数は多くなく、将来についての具体的なビジョンはあまりもっていないようである。

### (3) 目指す生徒像

将来を見据えながら、今の自分に必要なことを考え、身のまわりのことに興味や関心をもち、職業観・勤労観を伴った生き方について考えられる生徒

## 3 研究仮説

3年間を見通した計画のもと、様々な形でキャリア教育を実施することで、自身の考え方や視野を広げることができ、将来に向けての「生き方」について考える力を育むことができるだろう。

## 4 研究の手立て

### (1) 3年間の「総合的な学習の時間」指導計画【資料1】 ※主なものを抜粋

中学3年間の様々な行事の中で、働く人々や様々な立場の人物の講義・講演を聞いたり、実習や体験をしたりすることで、自身の視野を広げて、生き方を考えていく。

なお、研究対象は現在の中学2年生であり、2年2学期以降の行事・内容に関しては近年の本校行事を元に現在検討している内容である。

学年	行事	内容等
1年	福祉実践教室（6月）	・一宮市社会福祉協議会による点字や車椅子などの講義、体験
	国際交流会（11月）	・一宮市国際交流協会と外国人留学生による講義、体験
	いじめ予防出張授業（12月）	・弁護士によるいじめ予防の講義と職業についての説明
	プロフェッショナルへの道（1月）	・生徒の保護者数名による職業についての講義、体験
2年	若狭宿泊学習（6月）	・自然の家での宿泊学習、体験
	職場体験学習（11月）	・ユーアイ精機株式会社社長による講義、体験
	上級学校調べ（12月）	・近隣上級学校の情報収集、レポート作成
3年	修学旅行（6月）	・東京近郊での宿泊学習、体験
	学科説明会（6月）	・上級学校の教員による学科の説明会
	保育体験（10月）	・近隣保育園へ行き、保育現場での体験
	進路説明会（11月）	・進路指導主事による進路決定に向けた説明会
全校	芸術鑑賞会（4月・11月）	・著名人や職業人による講演会
	教育講演会（10月）	

資料1 3年間の「総合的な学習の時間」指導計画

### (2) 様々な講義・体験

#### ①福祉実践教室（1年6月）

一宮市社会福祉協議会の講師の方々をお招きして、「車いす」「手話」「点字」「ガイドヘルプ」「高齢者疑似体験」「認知症理解」の希望講座別で講義、体験を行った。事前に愛知県発行の「思いだしてごらん」（資料2）を参考にそれぞれの講座の内容を知った上で講師の方への質問を考えたり、Chromebookを用いて調べたりした。



資料2

また、自分なりの課題を設定してから体験に臨むようにして、体験後にはレポートを作成した。

## ②国際交流会（1年11月）

一宮市国際交流協会と外国人講師（ウズベキスタンからの留学生）をお招きして、ウズベキスタン共和国の文化・歴史・習慣などの紹介やクイズ、民族衣装の試着体験などを行った。

## ③いじめ予防出張授業（1年12月）

子どもの権利委員会所属の犬飼敦雄弁護士（犬飼法律事務所）を含む5名の弁護士をお招きして、「いじめ予防出張授業」を行った。講義の中ではいじめや人権に関するだけでなく、弁護士という仕事についての話も聞き、仕事についての質疑応答も行った。

## ④プロフェッショナルへの道（1年1月）

本校生徒の保護者や卒業生の保護者など、講師7名の方をお招きして、それぞれの職業についての講義、体験を行った。事前にどの講座の話を知りたいか希望をとり、職種ごとの6講座で実施した。講師の方には仕事の内容だけでなく、仕事を選んだ理由や取り組む姿勢、自分にとってその仕事はどういうものかなどを話していただいた。

また、事前学習として「中学生生活と進路」やワークシートを用いて、働く理由を考えたり様々な職業について調べたりした。あわせて、株式会社 Blueberry の「GIGA プログラム」を用いて「AI 職業診断」や「動画教材による職業調べ」を実施した。

「プロフェッショナルへの道」実施後には「自分の生き方・将来像を考えよう」というテーマでレポートを作成した。

## ⑤芸術鑑賞会（1年11月、2年4月）

昨年度11月に脳性麻痺と闘うヴァイオリニスト式町水晶さんをお招きして、「僕を支え続けてきた宝物」という演題で講演・演奏を行っていただいた。

今年度4月に講談師の旭堂鱗林さんをお招きして、「おかげおかげの芸の道！女芸人てんてこ舞い日記！」という演題で講演を行っていただいた。

## ⑥教育講演会（1年10月）

昨年度10月に作曲家でピアニストの小林真人さんをお招きして、「明日を信じて～You can fly!～」という演題で講演・演奏を行っていただいた。音楽の授業や同月に実施した合唱祭で小林さん作曲の「明日を信じて」を合唱しており、当日にも小林さんの伴奏のもと、全校生徒でこの曲を合唱した。

## 5 研究の実践と考察

### ①福祉実践教室（1年6月）

「車いす」「手話」「点字」「ガイドヘルプ」「高齢者疑似体験」「認知症理解」の6講座に分かれて、福祉実践教室を行った。最初に全体会を行い、障害についての理解を深め、その後、講座ごとに分かれて体験活動を行った。

全体会では、聴覚障害の方と手話通訳の方が実際に手話を用いながら、「どのような障害の種類があり、どのように困っているか」、「そのような人にとってどうやって支援をしてもらいたいかなど、身体が不自由な方の話を聞くことで、より深い学びにつながったと感じる。【資料3】また、講座別の体験では、様々な道具を使って体験することで、支援をする側だけでなく、支援をされる側の気持ちも考えることができ、今後の関わり方を考える機会となった。

【資料4】



資料3



資料4

また、体験後にはレポートを作成した。最初に設定した課題を踏まえて、生徒がそれぞれの講座の中で感じたことや学んだこと、今後実践していきたいことなどを用紙にまとめ、それらを廊下に掲示した。生徒同士がお互いに学んだことを共有することで、自分が参加した講座以外の内容も知ることができ、これからの生き方を考える良い行事となった。

## ②国際交流会（1年11月）

一宮市国際交流協会の事業に申し込みをして、ウズベキスタン人留学生を招いて国際交流会を行った。会の中ではスライドを使っての国の紹介やクイズ、民族衣装を試着する体験などを行った。【資料5】



ウズベキスタンという普段あまり接する機会のない国について話だったため、生徒たちは真剣に話を聞いており、クイズや民族衣装体験は楽しみながら参加することができた。会の最後には質疑応答もあり、留学生の皆さんが丁寧に話をしてくださり、実りのある会となった。

交流会後の英語の授業では、学んだことを復習したり、クロームブックを用いてより深い情報を調べて共有したりすることができた。

## ③いじめ予防出張授業（1年12月）

子どもの権利委員会に申し込みをして、弁護士を招いて「いじめ予防出張授業」を行った。5名の弁護士がそれぞれ5クラスに分かれて2時間の授業を行っていただいた。授業の中では、人権週間を踏まえた「人権とは何か」、アニメのキャラクターを例にした「いじめに関わるそれぞれの立場」、「実際にあったいじめの例」、「弁護士という仕事について」などの話をしていただいた。【資料6】



授業を行った日が人権週間で内容がいじめに関わることであったため、生徒たちはとても前向きに参加することができた。弁護士の方々が身近な例を出しながら分かりやすく説明してくださり、改めて人権について考えることができた。

また、弁護士の方々の話は説得力があり、実際にあった相談や裁判の話を実際に聞き、質疑応答もしていただいた。その中では弁護士という仕事についても興味を示している生徒が多かった。

## ④プロフェッショナルへの道（1年1月）

本校生徒や卒業生の保護者の協力を得て、「プロフェッショナルへの道」と題して、様々な職業人に話を聞く行事を行った。「保育士」「放課後児童支援員」「営業」「製造業」「IT技術者」「看護師」「書道教室講師」の講師7名による6講座で実施した。【資料7、8、9】

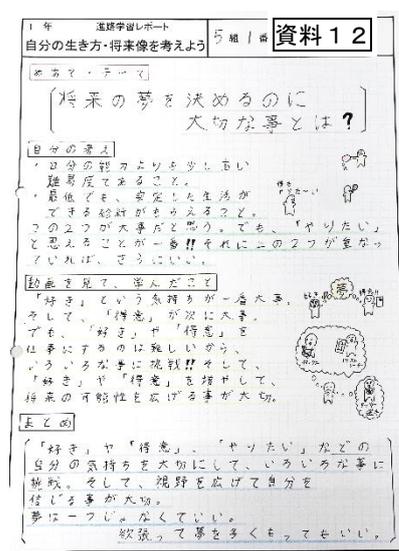
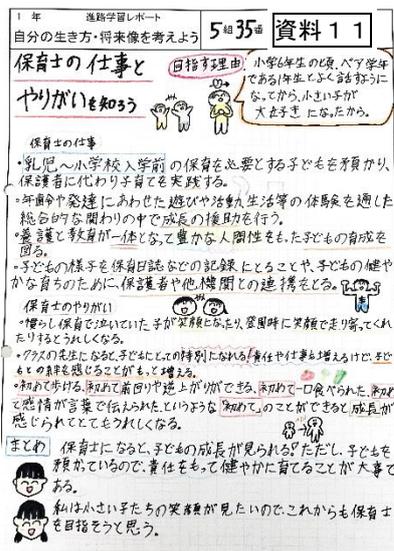
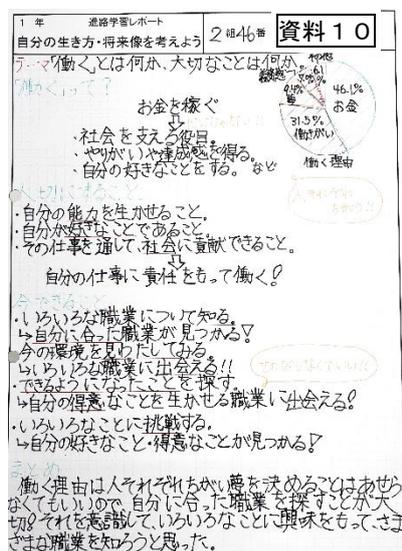


事前学習として「中学生生活と進路」とワークシートを用いて、「私たちが働く理由」という授業を行った。将来就いてみたい職業や働く理由を考えたり、様々な職業や必要な資格などを調べたりすることができた。また、株式会社 Blueberry の「GIGA プログラム」も活用した。「AI 職業診断」では数問の選択肢に答えていくことで自分に合っている職業を提示してもらい、それらの職業に就いてい

る人の動画を見ることができた。それぞれの仕事がどのようなもので、どのような思いをもって働いているかを知ることができ、視野を広げる良い機会となった。

「プロフェッショナルへの道」に向けて、事前に希望をとり、それぞれが興味のある講座に分かれて実施した。講師の方には事前に仕事内容の説明や体験、選んだ理由や働く姿勢について、講義の中に入れて話してもらうようお願いしており、生徒たちにとって充実した時間となった。

「プロフェッショナルへの道」実施後には「自分の生き方・将来像を考えよう」というテーマでレポートを作成した。講義を通して学んだことだけでなく、「将来就いてみたい職業」「働くということ」「自分の今後の生き方」など、様々な視点から自分に必要なことを考え、調べてレポートにまとめることができた。後日それらを廊下に掲示することで、お互いに学んだことを共有して、色々な考え方を知ることができ、将来のことを考える良い機会となった。【資料10、11、12】



### ⑤芸術鑑賞会（1年11月、2年4月）

昨年度11月にヴァイオリニストの式町水晶さんをお招きして、「僕を支え続けてきた宝物」という演題で講演・演奏を行っていただいた。

脳性麻痺を患いながら、より多くの人に夢や希望を与えたいという思いで、全国各地でコンサートや講演会を行っている方で、重い病気をもちながら力強く生きる人が世の中にはたくさんいることを教えてくださいました。【資料13】



資料13

また、今年度4月に講談師の旭堂鱗林さんをお招きして、「おかげおかげの芸の道！女芸人てんてこ舞い日記！」という演題で講演・講談を行っていただいた。

東海地方を中心に講談師、タレントとしてテレビやラジオ、劇場で活躍している方で、ご自身の人生についてユーモアを交えてお話していただきました。女性が少ない世界で、この職業を選んだ理由や多くの人との出会いの大切さなど、貴重な話をしてくださり、「生き方」を考える機会となりました。【資料14】



資料14

## ⑥教育講演会（1年10月）

昨年度10月に作曲家でピアニストの小林真人さんをお招きして、「明日を信じて～You can fly!～」という演題で講演・演奏を行っていただいた。

あらかじめ音楽の授業の中で小林さん作曲の「明日を信じて」を練習しており、合唱祭でも全校生徒で歌う機会を設けた。講演会当日にも小林さんの伴奏のもとこの曲を合唱した。作曲者から練習した合唱曲の作られた背景やエピソードを聞くことで、この曲に対して愛着をもつことができ、歌詞の意味を理解しながら楽しく歌うことができた。講演の中では、小林さん自身のこれまでの人生についても話をしていただき、作曲家・ピアニストという仕事のやりがいや楽しさを聞くことができた。【資料15】



資料14

## 6 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

それぞれの活動の生徒の感想から、「自分の将来について考える良い機会となった」「今まで知らなかった世界を知ることができた」「働くことの大変さややりがいを教えてもらった」など、前向きな感想が多く見られた。また、①福祉実践教室や④プロフェッショナルへの道では、あらかじめ生徒一人一人が課題をもって臨み、話を聞いたり体験したりする中で、自分で考えて解決するように計画することで、主体的に取り組むことができた。

### (2) 研究の課題

キャリア教育を実践するにあたって、生徒たちが働く人々や様々な立場の大人に話を聞いたり、実際に体験したりすることは非常に有効な手段だと改めて感じた。数年前まで実施していたように、実際に各事業所を訪れて職場体験をすることは難しいかもしれないが、やり方を工夫してそのような活動を実施していくことは検討していきたい。

また、各活動の講師の選定も課題である。本校では教務主任を中心に講師を選定したり、教頭を通じて保護者に依頼したりしていたが、講師への講演料や謝礼、講演や活動のねらいの共有、生徒の実態に合わせた内容の打ち合わせなど、担当者の負担が大きいことも分かった。そのような負担を少しでも軽減できるように、各校での情報共有ができることが良いと考える。

## 7 おわりに

現在、本研究「3年間を見通したキャリア教育」のうちの2年目にあたる。これまでの活動で出てきた課題や生徒たちの実態から、今後の活動も必要に応じて柔軟に対応していきたい。

その中で、キャリア教育と進路指導についても考える必要がある。3年時の進路指導が「中学を卒業した後の次のステージを決めるだけの指導」にならないように、生徒一人一人の思いを聞き、将来のことを踏まえながら指導していきたい。

今後も生徒たちにとって「生きる力を育む」ために何が必要なのか、教員間や各種関係機関と連携をとって、実践していきたい。